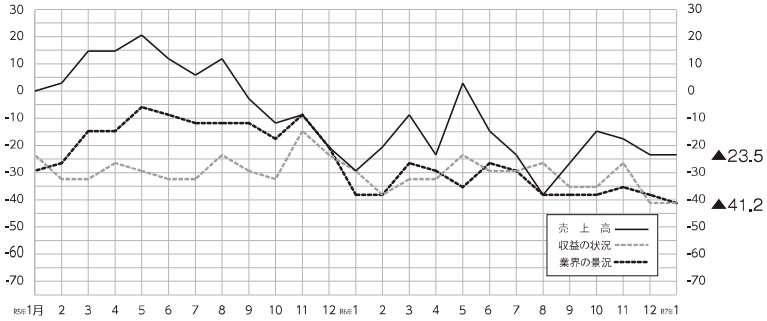


DI(景気動向指数)

情報連絡員報告



業界の状況

- ...好転
- ...不变
- ...悪化

	なし
--	----

食品団地	1月度は、県内外共にやや低調で昨年並。ガソリン・電気・ガスの値上がりで収益低下を招いている。食品業界全体の商品値上げも活発化。先行きの不安により、設備投資が低調しているようである。
テントシート	原材料の高騰について、販売価格へのスムーズな転嫁が厳しい状況が続くと思われる。3月より防災加工製品の値上げがあり、厳しい状況が続く。
木製品素材生産	1月の出材量は、降雪等もあり多少の減少はみられるもののほぼ横ばい状態。全体量では昨年より多少減少気味となってきている。丸太価格については、製材品の動きが多少良くなってきており、丸太価格も上がり気味ではあるが、全体的に横ばいで推移している状況である。今後の見通しは、期待感はあるものの現状大きな変動は見込めない。
建具	半年ぶりに、対前年度比100%の売上があった。年度末の公共工事に期待したい。
製紙(家庭紙)	紙製品全体として、販売金額及び生産量が4カ月連続で前年同月比を上回った。しかし、販売量は前年を下回った。また、衛生用紙のティッシュペーパー、トイレトペーパーは、先月に続き販売量を含めて動きが良い。
製紙(手すき和紙)	今月もほんの少しだが売上は上がった。注文も少しずつ増えてきているが、供給が間に合わない状態となっている。今後も変動の厳しい状況が続くと思われる。
刃物製造	今月は納品が遅れ気味の、付属品の入荷も遅れ、スムーズにできなかったことが響き、かなりのマイナスになってしまった。
船舶製造	12月の売上が減少していたため1月は増加している。仕事量は高操業で推移している。
珊瑚装飾品製造	1月度の取引額は前年同月比81%となり、4カ月連続で前年を下回る結果となった。
青果卸売	入荷状況(前年同月比)について、野菜:数量94%・キロ単価130%、果実:数量74%・キロ単価136%。組合員全体では、買上高は110%強であるが、各社では90~140%台と12月以上に大きな差がある。利益面では各社に大きな差があるのではないだろうか。
生鮮魚介卸売	今月もまた前年同月比で売上高が減少。仕入の単価は上がっているため利益に繋がらない。早く初ガツオが始まってほしい。
各種小売(土佐市)	1月も流れはあまり変わっていない。商店街も人が出て来なくて寂しい状態が続いている。
中古自動車小売	高年式の軽自動車やハイブリッド車の注文、問い合わせ件数が増えている。業界全体の流通量も多くなる時期ではあるが、相場も徐々に上がり始めているので注文車や展示車両の確保が一段と厳しくなると思われる。
商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の92.1%(1,972台減)、料金収入は前年の96.3%(299千円減)。要因としては、営業日数1日減(1月2日休場)が考えられる。令和7年の初売り(2日)は、(株)高知大丸の初売りが前年2日から今年は3日となった為、高知大丸周辺の商店街中心に来街者が少なくなった。中旬に開催した成人式撮影会には前年並の参加者があり、商店街全体に賑わいがあった。

商店街(四万十市)	1月は帰省客も多く、新年会・同窓会等で賑わった。しかし、生活用品のたび重なる値上げは商店街にも厳しい風となった。
旅館・ホテル	年末年始は例年より休日が多く調整に推移したが、先々のツアー団体の集客が悪く苦戦が予想される。宴会部門について、12月の忘年会シーズンはインフルエンザの流行等でキャンセルが増加。インフルエンザの流行はスタッフにも影響し、人員不足により宿泊、宴会ともに予約受付を限定するケースもあった。
旅行業	組合クーポン前年同月対比80%、全旅クーポン合算後の前年同月対比92%。前年同月は対比割れだが、1月末時点の総売上は前年度売上を超過した。
IT事業	今月の売上は前年同月比で34%増となり、前々年同月比では1.5%減となったものの、結果として4カ月連続で前年を上回る推移となっている。毎月の総案件に加え、各部門の増加傾向は引き続き見られ、安定した成長が続いている。また、補助金活用を伴う設備投資関連の大型案件についても、見積り依頼が入ってきており、今後の動向に期待が持てそうだ。一方で、人件費の高騰やコスト増の影響を踏まえ、単価の見直しについての検討が引き続き求められる状況だ。組合の共同受注事業については、青年部を中心とした営業強化の取り組みが続いているが、軌道に乗るにはもう少し時間を要する見込みである。年度末に向けた需要の動向を注視しつつ、補助金活用の促進や設備投資の拡大を引き続き後押ししていきたい。
電気工事	組合員の施工する電力引込線工事量は、前年同月比76.5%となった。香長地区が315%増となったものの、高知中央地区が66%減、中村地区が58%減となった。
タクシー	実働1日1車当りの前年同月比運送収入:106.2%、輸送回数:99.6%、実働率:52.0%。運転者不足が続く中、高知市の支援により地域アプリを導入する準備をしている。高知市民の移動確保の確保、タクシー事業の将来を考え、お客様により便利にタクシーを使っていたくことを期待している。

酒類製造	前年並で推移。原料米や諸経費の高騰への対策が必要である。
製材	建築需要は依然低調である。資材価格等の上昇により収益面は厳しい。
印刷	11月、12月に引き続き当月も売上減、操業度低下。特に当月は県外需要、県内需要共に不調で厳しい結果となった。デジタル化によるペーパーレス等が顕著となり需要低迷の要因となった。
生コンクリート製造	1月度の全組合員の出荷量は、対前年比91.6%であった。また、4月からの累計出荷量は、対前年比95.0%で前月に比べ減少傾向であった。地域的には、前月同様に東部・發北・中央地区が増加傾向であるが、中部・高橋・幡多地区は減少傾向が続いている。
コンクリート製品	対前年同月比96.9%。今月は少し持ち直したが、累計では例年より少ない状況が続いている。令和6年が少なかったことが原因と思われる。
機械団地	各社とも業績は足踏み状態で、団地内は横ばい圏内で推移している。
卸団地	ガソリン価格高騰の影響が大きく、経費増に苦戦する事業所が多い。外食、観光における消費についても低調であり、少なからず同様の要因と思われる。景気回復は感じられない。原材料、電気代、ガソリン代の値上げが続く。
電気機械器具小売	1月度は全商品平均で前年比89%であった。省エネエココートは前年並。大画面テレビ4Kタイプは前年比86%、白物家電の冷蔵庫は86%。家庭用防犯カメラ、センサーライトの関心が高くなっている。
ガソリンスタンド	激安緩和措置の補助額が減額された1月16日以降の仕切り価格は上昇したが補助金により抑えられ、下がるはずの補助金額は逆に増えることとなり1月末補助額は20.5円/Lとなっている。減額された補助額が原油価格により上下するのは変わらず先が見えない。今後も仕切り価格は毎週上下が続くであろう。
商店街(安芸市)	令和7年度に向けた振興計画のワーキングが行われた。これまでの取り組みを継続しつつ、空き店舗や既存の店舗の強化を目指し「元気で強いまちづくり」を視野に意見交換が行われた。また、毎年8月に開催の「商い甲子園」について、近年の猛暑により、参加する高校生やスタッフ:来場者の熱中症を考慮して、今年は10月26日(日)の開催に決定した。
飲食店	売上高は9カ月連続で前年同月を下回った。当月の下げ幅は大きく前年度比で1割割れ。コロナ禍以前の売上比較は約8割~9割。集客は少なく県の西部で特に減少している。物価高により県内の消費者の購買意欲が相当下がっており、集客が覚えにくい。前年度同月に比べ更に物価は高騰。光熱費・仕入れ価格・人件費、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
クリーニング	何より需要の減少、点数減が大きい。物価高騰による消費者の節約志向が強まっており、エネルギー価格や資材価格の高止まり、人件費上昇など経営を圧迫している。価格転嫁は更なる消費者離れにつながるのか、躊躇する声が多い。高知県はガソリン・重油・灯油・ガス等のエネルギー価格が他県と比べて高い。
一般土木建築工事	令和7年1月分の県下生コンクリート総出荷量は、前月比83.1%、前年同月比91.6%、前年同月累計比でも95.0%と依然低調。そのうち共同販売事業に係る出荷量は累計177993.87m ³ で全体の37.64%と低調で危機的レベルにある。災害復旧工事、防災・減災対策工事、高速道路の延伸工事などの大型工事については継続しているが、高速道路の整備以外に大型工事が見込めない状況。生コンクリート販売単価については、骨材他あらゆるものが高騰しており、今年2月出荷分より一部値上げ実施となっており、4月出荷分より値上げを目指している。高知市の組合再編について、1月16日の発足総会の開催は破談となった。
一般貨物自動車運送	年末年始の休みが長かったこともあるが、組合事業は前年を下回った。荷動きが鈍いままである上に、燃料価格は1月も3~4円程度の値上げとなり、高騰が続いているため組合員事業者の経営を更に圧迫している。